

連載企画

ぱれっと中期計画策定に向けて①

おかし屋ぱれっと・法人事務局が移転し丸2年が経ちました。渋谷区から土地の無償提供があり、年間1,500万円の家賃負担が解消され、最大の課題であった法人の資金問題が解決されました。新たな拠点づくりに向け、平成25年からぱれっとの理事やボランティア、ぱれっと親の会メンバー(以降:ステークホルダー)と共に何度も勉強会を開き、ぱれっとの理念に沿った形で、新たな移転先での夢の実現に向け中期計画策定の文章化作業を行なった背景があります。

拠点を構えた今、改めて自分たちの立ち位置を見定め、方向性を見つめ直し、これからの中期計画を練り直す時期にあります。今月号から、ぱれっと中期計画策定に向けた会議やステークホルダーとの勉強会の報告を掲載してまいります。

●中期計画策定委員会発足

中期計画策定に当たり、メンバーの選定を行ないました。各セクション幹部スタッフだけではなく、現場スタッフの考え方や幅広く意見を聞くため、ホームとおかし屋、理事からも1名策定委員会メンバーに加入してもらいました。第一回目の委員会では、今回の中期目標策定の目的や意義、委員の役割、前回の中期目標の振り返り、今後の方向性など、具体的な動きも含めて話し合いを行ないました。

●中期計画策定目的・意義の確認

前回、ぱれっとの拠点を構えるための勉強会は、事務局主体で進行し、現場の意見を取りいれながら、理事や親、ボランティアと共に全体へ反映させ、移転及び拠点づくりに向けて中期計画の文章化を行ないました。今回は組織が今後目指すべき方向を立案するという状況を鑑み、現代社会の優先課題を整理しながら、中期的視点からぱれっとが取り組むべき行動指針をステークホルダーとともに考えていく、このような目的や意義を確認しました。

今回は、各セクションのトップに加え、各現場スタッフと理事も交えながら策定委員会を構成し、中期計画策定に関わる上での当事者意識と意味報酬がフィードバックされ参画感を得ることを目的としたメンバー構成としました。

●策定委員会の役割

ステークホルダーと共に中期計画を考える場として前回と同じように全体会を設けることを考えています。策定委員は会議の柱を立てる役割と、意識の統一をリードすることがの大きなねらいです。

4年前のぱれっとの状況は、移転ありきで資金の課題解決が最優先課題でした。拠点を構えることで、そこに夢を乗せること、地域に根付いた拠点とすることをコンセプトに、中期計画の文章化を行なった背景があります。こうしたことから、

次につなげる意味でも、前回の振り返りが必要であるという意見が策定委員会から出ました。

●拠点づくりの振り返り

前述した通り、前回中期計画を策定した際のぱれっとは、家賃等の運営資金問題で、移転は急務でしたが、それだけではなく、ぱれっとが目指す拠点に、どういった夢を乗せられるか、ステークホルダーとともに何度も勉強会を開き、話し合いました。30年間、地元恵比寿で活動を続けてきているぱれっとが、『地域に本当の意味で根差しているのか』と、当時勉強会の場で、恵比寿地域で暮らす理事の一人から意見が出ました。そしてそのひとことをきっかけに、地域に根差す意味をみんなで考えることとなりました。その結果出来上がった方針は、下記のようなものでした

「人間関係が希薄な地域社会の中で、誰もがつながり新しい生き方を見いだせる拠点づくり」

*注釈

・誰もが:障がいのあるなしに関わらず、高齢者や外国人も含めた地域の人々

・新しい生き方:多様な人とのつながりの中から自分らしい生き方と選択の創造

・拠点づくり:地域社会とつながれる場・雇用拡大や職域開発・多様化するニーズに対応できる暮らしの場づくり

こうして、多くの皆様のご支援もあり、拠点を構えることができましたが、当初

思い描いていた夢は何だったのか、移転する前と今の状況はどう変わったのか、今回の中期計画策定作業では、この点についても振り返りながら、今の活動の検証を行ないたいと思います。その作業に関わる人たちの客観的視点は、ぱれっとの事業が彼らにどう映っているかを知る良い機会です。事業やサービス、スタッフ・ボランティアらの人間関係等、内部からは見えにくい活動の本質の部分に対し、謙虚に意見を聞く姿勢が今後の新たな事業展開には必要に感じます。

●時代の変化に即した中期計画の策定

ぱれっとの事業も35年の変遷を辿り、理念に掲げている「当たり前」の概念が時代とともに少しずつ変化してきていると感じます。福祉に新たな価値観を吹き込みつつ、時代のニーズにも則した、中期計画スローガンの言語化をまずは柱としたい思いがあります。

<サービスの自由な選択・行政から民間主導のサービス提供、法律・制度の変革、本人ニーズの多様化>

ぱれっと発足当時から比べると、福祉の捉え方も大きく変わりました。本人や親の高齢化に伴い、多様なケアの必要性やそれに伴う働き方も変わり、本人の状況の変化に対応した柔軟な支援も必要になってきています。新たな価値の創造を柱とした、本人を取り巻く課題・社会が抱える課題の解決に向けた、我々が「やるべきこと・やりたいこと」の模索をする中期計画策定としたいと考えます。

(NPO法人ぱれっと理事長相馬宏昭)